

今回の  
テーマ

ミケブロックの

# 「作業性」

ミケブロック  
情報 VOL.2

防蟻剤を水で薄めて希釈液を作る「作業」。毎日行う作業だからこそ、防蟻業者にとってより優れた作業性が望まれることは容易に頷けます。ミケブロックが採用する剤型「顆粒水溶剤」。VOCを含まず超低臭性という特長がある一方で、水に溶けにくいのでは・・・水に溶かした後すぐに沈殿するのでは・・・という心配の声を頂いていたことから、**希釈液を作る作業性に関して一般的な防蟻剤との比較試験を実施しました。**

■試験機関 三井化学アグロ株式会社

■供試薬剤

供試薬剤	剤形	使用倍率
ミケブロック	顆粒水溶剤	100倍
A剤(ネオニコチノイド)	フロアブル(FL)剤	200倍
B剤(ネオニコチノイド)	フロアブル(FL)剤	200倍
C剤(フェニルピラゾール)	マイクロカプセル(MC)剤	125倍
D剤(ネオニコチノイド)	マイクロカプセル(MC)剤	50倍

攪拌機での攪拌の様子



## 1 水希釈時の混ざり易さ

■比較試験

ガラス水槽に水25Lを入れ、各薬剤を規定量投入後攪拌機で攪拌し、

①側面・底面の外観変化観察 ②上層・下層の濃度分析 を実施

規定濃度を  
100とした  
場合の指数

供試薬剤	①外観変化		②濃度分析(指数)		
	側面	底面(10秒後)	10秒後		
ミケブロック		3秒程度で均一に青色半透明化		上層	100
				下層	100
A剤(FL剤)		瞬時に均一に白色化		上層	100
				下層	100
B剤(FL剤)		3秒程度で均一に黄色がかった透明化		上層	100
				下層	100
C剤(MC剤)		瞬時に均一に白色化		上層	100
				下層	100
D剤(MC剤)		瞬時に均一に白色化		上層	100
				下層	100

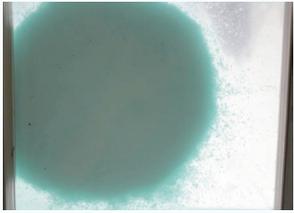
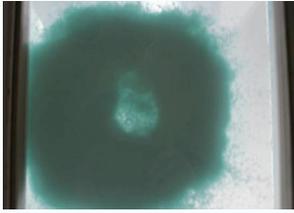
結果

水希釈時の混ざり易さは、他剤(FL剤、MC剤)と**大きな差は無し。**

## 2 水希釈時の混ざり易さ (低水温時)

### ■低水温時の溶解性影響確認試験

ガラス水槽に3℃及び16℃の水10Lを入れ、ミケブロックを規定量投入後  
攪拌機で攪拌し、底面の外観変化(残顆粒の状況)を確認

水温	水槽底面の状況		
	投入直後	10秒攪拌後	20秒攪拌後
3℃		 隅に顆粒が僅かに残存	 基本的に残存無し(肉眼で僅かに確認)
16℃		 基本的に残存無し(肉眼で僅かに確認)	

結果

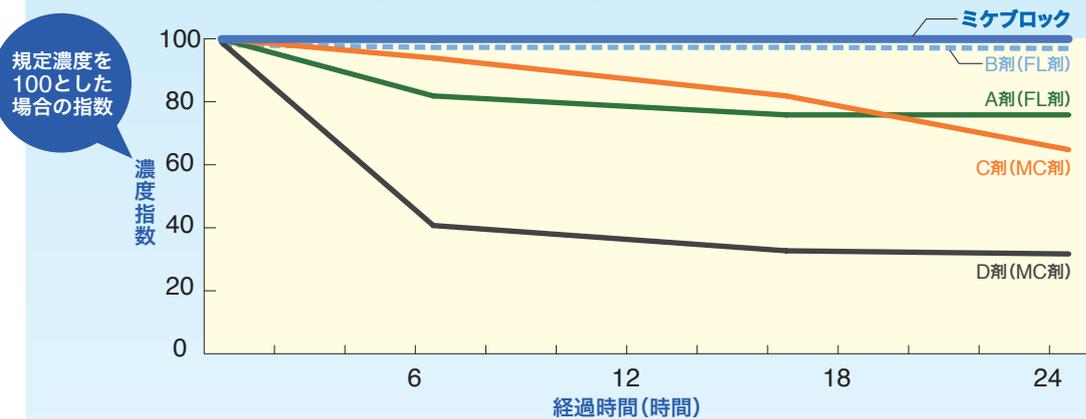
低水温時でも溶解性に大きな問題無し。

(低水温時は若干溶解性が劣るが、実用上問題になるレベルでは無い)

## 3 希釈液の安定性

### ■比較試験

ガラス水槽に各薬剤の希釈液を調製後、24時間後までの上層の濃度分析を実施



結果

希釈液を調整後、24時間経過時点でも有効成分の分離無し。

午前中調製した希釈液 → 当日午後使用時  
前日夕方調製した希釈液 → 翌日使用時

再攪拌は基本的に不要



三井化学アグロ株式会社

〒105-7117 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター  
TEL 03(3573)9761 FAX 03(3573)9894  
ホームページ <http://www.mitsui-agro.com/>